

## 令和2年度

No.	プロジェクト名	本学担当者	共同研究機関・担当者		研究内容(連携事業内容)
1	滋賀県における幼児の運動能力 (2020年度)	奥田 援史	滋賀県教育委員会	主事 村部謙介	滋賀県における幼児の運動能力の現状を分析すること。
2	小学校外国語科に関する研究	○大嶋 秀樹	滋賀県総合教育センター 所長 猪田 章嗣	滋賀県総合教育センター 主査 中川 恵実子、 研修指導主事 足田 かおり	新学習指導要領の全面実施に伴い、拡充が図られた小学校5, 6年生の外国語科(英語)における、英語によるコミュニケーションの資質・能力の育成を図る、CAN-DOリスト(滋賀県版)沿ったパフォーマンス評価の実施モデルの研究に取り組む。
3	理科教育に関する研究	藤岡 達也	滋賀県総合教育センター 猪田章嗣	三木 崇史(係長) 隼瀬 憲一郎(研修指導主事) 中川 聖良(研究員)	「考察・推論」に重点を置いた探究の過程を踏まえた学習の実践とルーブリックを活用した学習評価を行うことによって、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指した高等学校理科の授業改善に寄与する。
4	理科教育に関する研究 問題を科学的に解決することに児童が主体的に取り組む、問題解決の力を養う 小学校理科の授業づくり ー全ての児童が目指す姿を意識して取り組むことを通してー	滋賀大学 教育学部 教授 加納 圭	滋賀県総合教育センター 所長 猪田 章嗣	研修指導主事 多田 尚平	全ての児童が目指す姿を意識し、問題を科学的に解決することに主体的に取り組めるような手立てを工夫することで、問題解決の力の育成を目指す。
5	自ら学び、自分の言葉で表現できる 子どもの育成	教育学部 (国語教育) ○准教授 長岡 由記	甲賀市教育研究所	甲賀市教育研究所 研究員 田中 由紀子	児童が自ら学び、自分の言葉で表現できる国語科授業をつくるために、教職員がチームを作って授業を計画・実施し、児童の学びの姿を教職員と授業記録に残し、その分析を行うことで授業改善のための要点を明らかにする。
6	授業力向上を支える甲賀流OJTの在り方について: PDCAサイクルに基づく教科研修会の分析	教育学部 ○准教授 渡邊 慶子 (数学教育学)	甲賀市教育研究所	甲賀市教育研究所 研究員 田中 由紀	本研究の目的は、主体的に学び続ける教職員を育むために、子どもの資質・能力向上につながるOJT(On the Job Training)研修の在り方を、教科指導におけるPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルを導入して探究することである。
7	親子の運動遊び促進のための啓発事業(優先順位1)	奥田 援史	草津市子ども未来部 幼児課	課長 前田典子	親子運動遊び促進のための遊具(教材)を開発し、その効果を検討すること
8	一人ひとりの伝える力を高める 授業づくり ー相手を意識して書く・話す力をつけるためにー (優先順位2)	教育学部 (国語教育) ○長岡 由記	大津市立小松小学校 西松 秀樹	教頭 三宅 弘 教諭 石垣 聖子	友達の意見と自分の意見の共通点や相違点を見付けて比較したり、考えを書きまとめて伝えたりする活動を取り入れた授業を計画・実践し、一人ひとりの伝える力を高める授業づくりの要点を明らかにする。

9	グローバル社会に生きてはたらく力をCLIL指導を通して育成する —内容指導、言語指導、思考活動、協働の学び、を有機的に結び付ける—	○大嶋 秀樹	滋賀大学教育学部 附属中学校 辻 延浩	教諭 宇田 竜子	本校中学2年生を対象に、英語科において、検定教科書「ニュークラウン2」の題材を活かしたCLIL指導を実施することにより、英語力だけではなく、本校教員で定義した「グローバル社会に生きてはたらく力」(全15項目。例:「自分事としてものごとをとらえる」「国・郷土を愛する」)を身につけられるかを検証する。
10	中学校の通級指導教室における指導・支援のあり方について —中学生に効果的なソーシャルスキルトレーニング(SST)の検討—	窪田 知子	高島市立高島中学校 (小中一貫校高島学園)	内藤 孝(校長) 大村 敦世 (通級指導教室担当教員)	昨年度、高島市では中学校に初めての通級指導教室が設置され、本事業の共同研究では中学校の通級指導教室の役割と具体的な指導・支援のあり方について検討した(『教育実践総合センター年報』第3号、2020.3)。その中で、中学生の通級として有意義な指導の中身や教材についてさらに検討を進めていくことが課題となっていた。そこで本年度は「自立と社会参加」をめざす中学生に対するソーシャルスキルトレーニング(以下、SST)の効果的な指導のあり方について検討する。
11	通級指導教室等の子どもに対する協調運動面の指導に関する実践的研究(4)	○川島 民子 奥田 援史 山本 一成	草津市立渋川小学校 通級指導教室 校長 清水 康行 通級担当 西田 史子 草津市立矢倉小学校 通級指導教室 校長 大林 道範 通級担当 竹岡 久恵	竹岡 久恵 (草津市立矢倉小学校 通級指導教室)	不器用で、運動が苦手と言われる発達性協調運動障害の可能性をもった通級指導教室等の子どもを対象に、通級指導教室等での学習活動について、事例を通して検討し、協調運動面を向上させる学習活動、指導内容・方法を明らかにする。
12	確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ生徒の育成 ～わかった・できたを実感できる、魅力ある課題設定と学習集団の育成を通して～	○畑 稔彦	豊郷町立豊日中学校 高畑 裕之	教諭(研究主任) 岩崎 剛	本事業では、算数・数学の問題発見・解決の過程イメージ図の左側の【現実の世界】の部分を含む過程、日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する過程プロセスを意識した教材の開発を進める。
13	幼稚園と特別支援学校での音さがし・音楽づくりプロジェクト	○林 睦 山本一成	滋賀県立野洲養護学校 北村 昭夫 滋賀大学教育学部 附属幼稚園 中村 史朗	岡ひろみ (滋賀県立野洲養護学校教諭) 西村佳子 (附属幼稚園副園長)	幼稚園と特別支援学校での音さがし・音楽づくりプロジェクトを実施し、幼稚園や特別支援学校では全国的にまだ事例が少ない音楽づくりの事例研究を目的とする。
14	石山っ子わくわく親子で畑体験隊 1	○森 太郎 與倉 弘子 久保 加織 石川 俊之	大津市石山公民館館長 目片 泰博	石山公民館生涯学習専門員 清水 琴野	農作物の栽培や観察など実体験を重視して農と食の大切さを理解し、食の安全・安心について考えるような「食農教育」が求められている。しかし、学校現場において、そのニーズに対応できるプログラムの確立、対応できる教員の確保は不十分である。そこで、地域の住民と連携(公民館、ボランティアスタッフ)して、小学生の親子を対象に畑体験活動を実施し、「食農教育」の地域連携プログラムを開発する。さらに、教育学部の学生が主体的にプログラムを計画・実施する場面を設け、教育現場において「食農教育」に対応できる人材を育成する。

15	算数・数学教育実践研究セミナー (第1候補)	○ 畑 稔彦	豊郷町立豊郷小学校 中野 泰弘	教諭 北村 俊	新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校が全国各地で行われた。本年度は新教育課程による算数科の授業がスタートするはずであったが、学校現場の関心事は学校再開後にどのように授業の遅れを取り戻すのかという部分に向いている。そこで、学校再開後の算数・数学科の授業に取り組むにあたり留意すべきことを具体的に示しながら、新教育課程の趣旨を活かした授業づくりをすすめる。
16	義務教育現場を対象とした 【声を鍛えるルーティントレーニング】の 作成・実施	○ 渡邊 史	滋賀大学教育学部 附属小学校 磯西 和夫 先生	矢吹 雄介 先生 (5年生担任・合唱部指導者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 発達期にある児童生徒を対象として「表現ツール」としての「声」の構築、汎用の動機づけを行う。</li> <li>● 児童生徒が「自身の声」と向き合うことで「自分自身」と客観的に対峙、すなわち「客観的視点」を獲得していくためのきっかけとなることを期待し、トレーニングを実施する。</li> <li>● 「声表現」の具体的スキル構築に取り組むことで、「声」を構築するために必要な身体各部の働きを意識させることで心身の健やかさを保つための様々な「気づき」「自己確認」のきっかけを提供する。</li> </ul>
17	知財創造教育の 先進的な取り組みの開発	○ 糸乗 前	大津市立仰木中学校 教頭 澤田 一彦	大津市CST代表者： 瀬田中学校 教諭 荒川 拓也 研修担当：仰木中学校 教諭 池内 伸圭 研修担当：長等小学校 教諭 田中 憲治	「知財創造教育」は、“創造されたものによって社会が豊かになっていることに気づくことにより、創造されたものを尊重することの意義について理解を深め、楽しみながら自ら創造していこうとする態度を育成する”ことが目標とされているので、理科での取り組みを推進する。